

施設の整備内容

① 手賀排水機場

昭和31年に「東洋一」の排水能力を持つポンプ場として完成し、手賀沼流域の排水を休むことなく行っている重要な施設です。

現在の機場を使用しながら工事を行い、流域開発に対応した1.5倍のポンプ能力に造り直します。

新機場完成後は、現在の機場は撤去します。

手賀排水機場とともに洪水調節を行っていた手賀沼調節水門も撤去します。



干拓事業で整備された揚水機場は、完成以降、地域内の水田に用水を供給し続けています。

③ 泉揚水機場



手賀沼、手賀川、金山落水路周辺の農地に水を送っています。

現在の機場を使用しながら東側に造り直し、新たに現在の円筒分水工付近に吐水槽を設置し、現在の機場は撤去します。



② 手賀第二揚排水機場(排水機)

干拓事業で生まれた農地と湖北台や新木の住宅地からの排水を手賀川に排水しています。



約1mの地盤沈下と流域開発により排水能力が低下しており、現在の機場を使用しながら東側に沈下に対応した機場を造り直し、現在の機場は撤去します。

④ 高野山(滝下)揚水機場 (改名:都部新田揚水機場)



手賀沼周辺と利根川沿いの農地に水を送っています。

現在の機場は土砂がたまりやすく、市街化も進んでいることから、都部新田に機場を造り直し、名称を「都部新田揚水機場」に改め、新たに五本松に吐水槽を設置し、現在の機場は撤去します。

⑥ 金山落水路



昭和38年にコンクリート張りの水路として完成し、周辺の農地等の排水を下手賀沼に排水しています。

地盤沈下と流域開発により、毎年湛水被害が発生しているため、倍の断面に水路を拡幅します。

⑤ 小森揚水機場



下手賀沼周辺と神崎川沿いの農地に水を送っています。

現在の機場は金山落水路からの土砂がたまる位置にあることから現在の機場を使用しながら下流側に造り直し、新たに平塚に吐水槽を設置し、現在の機場は撤去します。